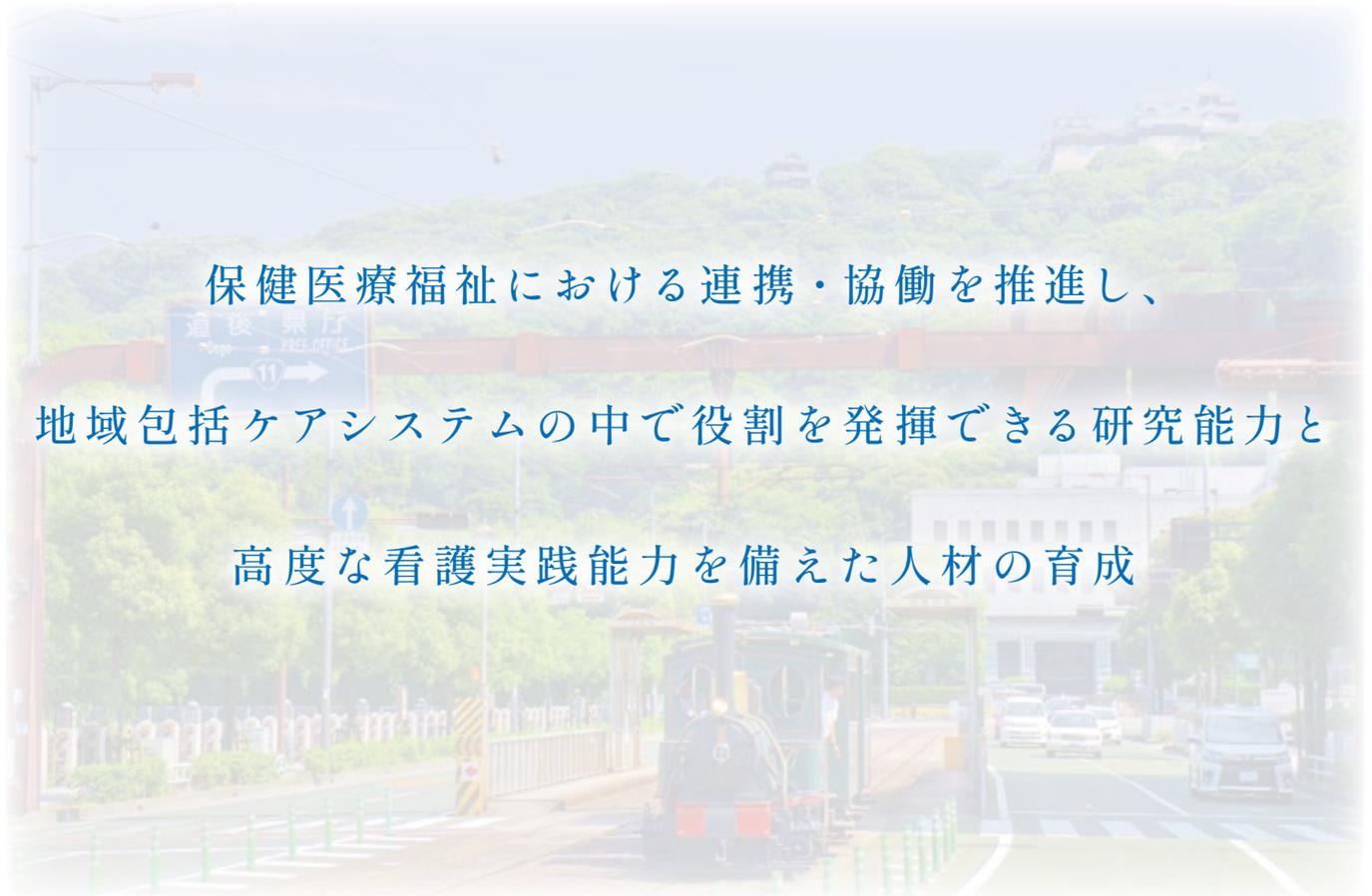




2024

# 聖カタリナ大学大学院

看護学研究科看護学専攻(修士課程)



保健医療福祉における連携・協働を推進し、

地域包括ケアシステムの中で役割を発揮できる研究能力と

高度な看護実践能力を備えた人材の育成

### 本研究科の教育研究目的

本研究科は、看護学が持つ専門性を深化させ、地域包括ケアの推進と構築を支えるための学術的基盤に基づく高度で知的な素養を養うとともに研究的視点を持ちながら、地域に浸透して自身の専門性を活かしたケアを構築し、保健医療福祉分野で指導者・管理者・教育者として貢献できる高度専門職業人を育てることを目的としています。

### 養成する人材像

本研究科の教育研究上の目的をふまえ、以下に示す高度な看護実践能力を備えた人材を育成します。

1 地域包括ケアの推進と構築を支えるための臨床判断力を備えた人

2 地域の人々のニーズに応じて健康に関する諸現象を分析し、探求する力、マネジメントする力を備えた人

3 「療養支援看護学分野」、「特定実践支援看護学分野」、「看護管理・看護教育学分野」に関する地域包括ケアに取り組み、地域の人々とともに歩む人



### 入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

本研究科では、建学の精神である「愛と真理」、教育研究目的に則り、看護を探究し、地域包括ケアの推進と構築を担うことができる質の高い看護実践能力や教育研究能力を備えた人材の育成を目指しています。この方針に基づき本研究科では、次のような能力や資質を備えた入学者を求めます。

- 1 キリスト教的人間観のもと、看護者として成長できる人
- 2 臨床現場の課題を追求し、専門的で質の高い看護実践者となることを目指す人
- 3 基礎的研究能力を培い、将来にわたり看護学の探求を目指す人
- 4 看護職として、地域の人々の健康への貢献を目指す人

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

保健医療福祉の臨床実践の場や臨地実習にて抱いた問題意識や経験により獲得した知識を本研究科における学修を通して、科学的根拠に基づく知識・理論に深化させます。そして、高度で知的な素養を養うとともに研究的視点を持ちながら、保健医療福祉における連携・協働を推進し、看護実践能力を修得することにより、地域包括ケアを推進していくことができる能力を修得することを目指した教育課程を編成します。

- 1 キリスト教的人間観を育み、専門性の高い看護ケアを探究する能力を培う。
- 2 多様な臨床現場における課題を追求し、地域の人々のニーズに応じた看護を創り、地域包括ケアシステム構築の基盤となる知識を探究する能力、的確に判断・分析・マネジメントする能力を培う。
- 3 各看護学領域の特徴に合わせて、保健医療福祉分野におけるそれぞれの課題解決のための専門的な看護ケアを探究し、看護の質の向上に向けた高度の看護実践能力、研究能力の学術的基盤のための教育課程を編成する。
- 4 研究・演習科目は、共通科目、専門科目による学修を土台とし、「療養支援看護学分野」、「特定実践支援看護学分野」、「看護管理・看護教育学分野」で教授される地域包括ケアの推進と構築を支える新たな看護の方法や看護実践の研究・開発に取り組み、看護の質の向上に寄与する看護研究能力を培う。

## 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科では、修士課程に所定の期間在学し、修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文審査および最終試験に合格し、以下に示す能力を備えた者に学位を授与します。

- 1 専門性の高い看護ケアを探究する能力を修得している。
- 2 看護学におけるニーズや実践上の課題を科学的根拠に基づき、的確に判断・分析する能力を修得している。
- 3 専門的な看護実践の質の向上を目指し、看護ケアをマネジメントできる能力を修得している。
- 4 療養支援看護学分野、特定実践支援看護学分野、看護管理・看護教育学分野から地域包括ケアに関する研究課題に取り組み、保健医療福祉分野における教育実践力および研究能力を修得している。

### 教育課程編成の特色

本研究科においては、身近な地域の特徴をふまえ、地域の課題への対応に合致した視点で、継続的、発展的に、地域包括ケアシステムの構築に寄与するために必要な科目を配置しています。また、喫緊の在宅療養者の多様なニーズを探究し、看護師・保健師を中心とする看護専門職が、地域の人々に寄り添いながら、地域のニーズに応じた質の高い看護を学術的、研究的な視点で探究する能力を修得するために必要な科目も配置しています。

### 研究指導教員および主な研究指導テーマ

地域包括ケアを推進・構築する中で保健医療福祉を繋ぐ高度専門職業人の養成の視点を示すために、目指す看護の特徴により、療養支援看護学分野と特定実践支援看護学分野と看護管理・看護教育学分野の3分野を設定し、それぞれの分野に、専門性の異なる7つの看護学領域を配置しています。

#### [ 療養支援看護学分野 ]

臨床と在宅を繋ぐ中で生活する対象者とその家族の療養支援に焦点をあてた看護を探究することを目指します。老年・在宅看護学領域、精神看護学領域を配置し、日常生活の場を中心とした看護課題および看護実践の探究を行います。

#### [ 特定実践支援看護学分野 ]

成人看護学領域、成育看護学領域、地域・公衆衛生看護学領域の実践的な視点に特化し、病院や病棟において特定の健康課題がある患者や家族、子どもや保護者、妊産婦、そして、地域住民の健康を支える看護や保健医療福祉を担う専門職の人材育成に焦点をあてた看護を探究することを目指しています。

#### [ 看護管理・看護教育学分野 ]

看護管理学および看護教育学の視点から、看護を取り巻く環境やケアを総合的にマネジメントするとともに、提供する看護サービスの質を評価し、広い視野をもって看護の質向上のための制度や政策が提言できる看護管理能力や、看護学生や看護職者に教育的にかかわり、看護教育上の課題の改善や解決に取り組む優れた教育力が発揮できる看護職の人材育成に焦点をあてた看護の構築を目指します。

研究指導は、以下の専任教員が担当します。

分野	領域	研究指導教員 (メールアドレス)	主な研究指導テーマ
療養支援看護学分野	老年・在宅看護学領域	教授 西田 佳世 (nishida)	<ul style="list-style-type: none"> <li>糖尿病や認知症がある壮年期から老年期の人の療養支援に関する研究</li> <li>エンドオブライフケアおよび看取りに関する研究</li> <li>回復期にあるリハビリテーション看護に関する研究</li> </ul>
		准教授 二宮 寿美 (ninomiya-s)	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅療養をしている高齢者およびその介護を担う家族介護者の支援やストレスに関する研究</li> </ul>
		教授 宮武 信枝 (rosalianm)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全人的看護の基礎としてキリスト教的人間観を据え、スピリチュアルな領域に関する学術的・実践的課題の研究</li> </ul>
	精神看護学領域	教授 坂原 明 (sakahara)	<ul style="list-style-type: none"> <li>対人援助能力の向上に資する効果的なカウンセリングの方法に関する研究</li> </ul>
特定実践支援看護学分野	成人看護学領域	教授 三木 佳子 (miki-y)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯において機能障害や健康問題を持つ人を対象にセルフケアの獲得やセクシュアリティ満足度に繋がる看護の課題に関する研究</li> </ul>
		教授 岡田 純也 (okada-j)	<ul style="list-style-type: none"> <li>慢性的な経過をたどる難病患者が自分らしい生活を実現するために必要な支援の在り方に関する研究</li> </ul>
	成育看護学領域	教授 梶原 恭子 (kajihara-k)	<ul style="list-style-type: none"> <li>マタニティサイクル期にある女性への健康支援に関する研究</li> </ul>
		准教授 川島 美保 (kawashima-m)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと家族を取り巻く健康課題に関する研究</li> <li>小児看護専門職に関する課題に関する研究</li> </ul>
	地域・公衆衛生看護学領域	教授 野村 美千江 (nomura-m)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に暮らす健康な人々あるいは療養者とその家族の支援に関する研究</li> <li>保健師の実践能力の向上や継続教育に関する課題に関する研究</li> </ul>
		教授 村岡 則子 (muraoka)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉・医療福祉における援助職の人材育成に関するスーパービジョンを含めた教育的手法</li> <li>安定的な就労支援の構築に関する研究</li> </ul>
看護管理・看護教育分野	看護管理学領域	准教授 酒井 淳子 (sakai-j)	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師および看護学生の職業意識とwell-beingに関する研究</li> </ul>
	看護教育学領域	教授 岡田 ルリ子 (okada-r)	<ul style="list-style-type: none"> <li>皮膚の機能保持・改善にかかわる看護技術の開発</li> <li>効果的な看護技術教育の実施・評価に関する研究</li> </ul>

※教員名の下にメールアドレスをいれています。メール送信の際は@catherine.ac.jp をつけてください。

区分	分野	授業科目	配当年次	単位数	担当教員
共通科目		地域医療特論	1前	2必	二宮 寿美、永井 康徳 (非)
		看護情報活用特論	1後	2必	西田 佳世、藤田 比左子 (非)
		医療社会学特論	1・2前	1選	田村 周一
		キリスト教人間学特論	1後	1必	宮武 信枝
		カウンセリング特論	1後	1選	坂原 明
		看護理論特論	1前	2必	川島 美保、三木 佳子、岡田 純也、野村 美千江
		看護倫理学特論	1前	1選	相原 ひろみ(非)
		ヘルスケアシステム特論*	1・2後	2選	野村 美千江、村岡 則子
		看護研究方法特論	1前	2選	三木 佳子、西田 佳世、川島 美保、二宮 寿美、岡田 ルリ子
		保健医療統計学特論	1後	2選	田村 昌彦(兼)
専門科目	療養支援看護学分野	難病看護学特論	1・2前	1選	秋山 智(非)
		エンドオブライフケア特論	1・2後	1選	西田 佳世、中橋 恒(非)
		老年・在宅看護学特論	1前	2選	西田 佳世、釜野 鉄平、二宮 寿美
		老年・在宅看護方法特論	1後	2選	
		精神看護学特論	1前	2選	中平 洋子 (非)
		精神看護方法特論	1後	2選	中平 洋子 (非)、坂原 明
	特定実践支援看護学分野	がん看護学特論	1・2前	1選	香川 由美子(非)
		成人看護学特論	1前	2選	三木 佳子、岡田 純也
		成人看護方法特論	1後	2選	
		成育看護学特論	1前	2選	梶原 恭子、川島 美保、増田 裕美
		成育看護方法特論	1後	2選	
		地域・公衆衛生看護学特論	1前	2選	野村 美千江
		地域・公衆衛生看護方法特論	1後	2選	
	看護管理・看護教育学分野	看護管理学特論	1前	2選	酒井 淳子、寺尾 奈歩子
		看護管理方法特論	1後	2選	
		看護教育学特論	1前	2選	岡田 ルリ子、永易 裕子
		看護教育方法特論	1後	2選	
	研究・演習科目	特別研究Ⅰ	1通	4必	西田 佳世、梶原 恭子、坂原 明、野村 美千江、三木 佳子、岡田 ルリ子、宮武 信枝、岡田 純也、村岡 則子、酒井 淳子、二宮 寿美、永易 裕子、川島 美保、増田 裕美、寺尾 奈歩子
特別研究Ⅱ		2通	7必		

\*看護管理学の内容を含みます。

## 修了要件

- ・標準修業年限2年以上在学(最長4年)
- ・共通科目は必修科目9単位、選択科目から3単位以上
- ・専門科目は主として専攻する分野の看護学領域の特論2単位と方法特論2単位、それ以外に主として専攻する分野およびそれ以外の分野の選択科目から3単位以上
- ・研究・演習科目は研究指導教員が担当する特別研究Ⅰ(4単位)、特別研究Ⅱ(7単位)の計11単位
- ・合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格すること

## 長期履修制度

職業や家事に従事する方が、自分のライフスタイルに合わせ、通常の修業年限(2年)を超えて柔軟に履修の計画を組むことができる制度です。あらかじめ自分で在学年数(3年以上4年以内)を決めておき、その期間の在学を経て必要な単位を修得し、修了および学位を取得できます。入学後、在学期間の変更も可能です(1回限り)。修了するためには所定の必要単位を含み30単位以上の修得が必要です。なお、授業料については、標準の修業年限に支払うべき授業料総額を、設定した修業年限(3年または4年)で除した額を各年度に支払うものとします。制度の利用を希望される方は、出願時に指導教員と今後の計画について相談の上、許可を得て、出願時に所定の用紙にて申請してください。

申請対象者は以下の通りです。

- ・職業を有している者(就労予定の者を含む)
- ・育児や長期介護等の事情により、標準修業年限で修了することが困難な者
- ・その他やむを得ない事情を有し、標準修業年限で修了することが困難であると本学が認めた者

## 在学生の声



### 今、求められる『看護の知』を拓く機会 —自らの看護実践の紡ぎ直し—

人生100年時代といわれる今、健康意識の高まりや生活習慣病の増加に伴い、今まで以上に対象者の生活に寄り添うことができる看護職へのニーズが高まっています。毎日が足早に過ぎる中、これからの看護職としての生き方や看護実践について考えていたところ、大学院の新設を知り、聖カタリナの精神である「地域の人々とともに」を柱にした『看護の知』、今の私に必要なものはこれだと確信しました。立地や就業継続が可能な学修環境も聖カタリナ大学大学院ならではの魅力です。

現職を続けながらの学生生活は不安ですが、新たな学びや喜びを共有できる仲間がいること、いつでも相談できる専門分野に特化した先生方の存在に支えられ、現在、2型糖尿病をもつ人の療養支援に関する研究の取り組みを始めました。1期生として学べる環境に感謝し、広い視野を持ち探求し続ける姿勢を大切に大学院生として歩みを進めていきます。

令和4年度入学(第1期生) 療養支援看護学分野 老年・在宅看護学領域 鈴木 里枝

## 学納金等

区分	納付金額
入学検定料	35,000円
入学金	200,000円
授業料(年額)	500,000円

※本学と連携協力に関する協定書を交わしている施設および本学看護学科の実習施設の職員、看護師養成学校の教員および本学卒業生(卒業見込みを含む)は、入学金を免除します。

## 社会人への配慮(昼夜開講制)

職業を有しているなどの事由から平日昼間の履修が困難な場合は、昼夜開講制や平日夜間及び土曜昼間の履修が可能となるよう大学院生が勤務と授業時間帯を工夫するなど、現職の勤務を継続しながら学修できるよう配慮しています。

### [ 平日夜間・土曜昼間の授業時間 ]

#### 平日夜間

6限：18：00～19：30  
7限：19：40～21：10

#### 土曜昼間

1限：8：50～10：20  
2限：10：30～12：00  
3限：13：00～14：30  
4限：14：40～16：10

## 出願受付期間・入学試験日

選抜区分	出願受付期間	入学試験日
一般選抜	【Ⅰ期】2023年8月1日(火)～8月17日(木) ※締切日の消印有効	2023年9月2日(土)
社会人特別選抜	【Ⅱ期】2024年1月10日(水)～1月19日(金) ※締切日の消印有効	2024年2月3日(土)

※出願はインターネットまたは郵送で行ってください。

※出願資格審査該当者は、以下の期間に審査書類の提出が必要です。

【Ⅰ期】2023年7月14日(金)～7月21日(金)

【Ⅱ期】2023年12月1日(金)～12月11日(月)

※出願前には、研究指導を希望する教員との出願前相談が必要です。

※Ⅱ期(2月)の入試は、Ⅰ期(9月)で定員を満した場合は実施しません。

## 問い合わせ・出願先

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地 聖カタリナ大学入試課  
TEL 089-993-0757(直通) フリーダイヤル 0120-24-4424  
<https://catherine-nyushi.com/graduate>



## 聖カタリナ大学大学院 看護学研究科

〒790-0022

愛媛県松山市永代町10番地1  
松山市駅キャンパス

TEL 089-947-0502(事務室)

FAX 089-947-0505